

令和5年度 子どもの心の診療支援事業

子どもたちの物質乱用にどう向き合うか —問題の背景と関わりについて—

12.12 TUE

19:00~20:30

(18:30開場)

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 薬物依存研究部 部長
薬物依存症センター センター長

松本俊彦

先生



参加費

無料

会場

山梨県立文学館 講堂

山梨県甲府市貢川1丁目5-35

対象

教育関係、福祉関係、医療関係、子どもに関わる支援者、
テーマに関心のある一般の方

主催

地方独立行政法人 山梨県立病院機構

山梨県立北病院

お問い合わせ 社会生活支援部 武田

TEL : 0551-22-1621

児童思春期は子どもから大人になるため大きく変化する時期で、心や身体のバランスを崩しやすい時期でもあります。子どもたちは自分の心身の不調を言葉で訴えることが難しく、異変に気付くには時間がかかります。そのため大人が、子どものサインに気づき、適切に対応していくことで、子どもの心の成長を助けることができます。

近年、児童思春期の子どもの物質乱用について耳にする機会が多くなりました。臨床現場でもコロナ禍以降、物質乱用の子どもが増加している印象であり対応が求められます。物質乱用が増加する背景には、どのような要因があるのか、子ども達に対し、大人はどのように関わればよいのか理解を深める機会として、松本俊彦先生をお招きし講演会を開催します。

講師略歴

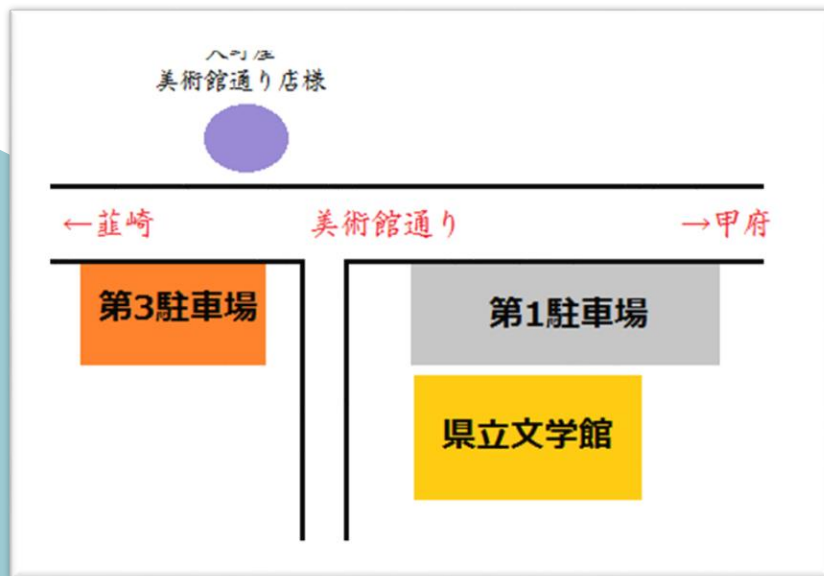
1993年佐賀医科大学卒業。横浜市立大学医学部附属病院にて初期臨床研修終了後、国立横浜病院精神科、神奈川県立精神医療センター、横浜市立大学医学部附属病院精神科、国立精神・神経センター精神保健研究所の司法精神医学研究部長、同自殺予防総合対策センター副センターなどを経て、2015年より現職。2017年より国立精神・神経医療研究センター病院薬物依存症センターセンター長を兼務。現在、日本精神科救急学会理事、日本社会精神医学会理事、日本アルコール・アディクション医学会理事、日本学術会議アディクション分科会特任連携委員。

主要著書

『自分を傷つけずにはいられない～自傷から回復するためのヒント』（講談社, 2015）、『もしも「死にたい」と言われたら～自殺リスクの評価と対応』（中外医学社, 2015）、『薬物依存症』（筑摩書房, 2018）、『誰がために医師はいる～クスリとヒトの現代論』（みすず書房, 2021)など

当日は混雑が予想されます。

お越しの際は**第3駐車場**のご利用、乗り合わせのご協力をお願いいたします。



☑申し込み方法

右記のQRコードにアクセスしていただき、必要項目を入力してお申し込みください
※かならず連絡のつく電話番号をご入力ください

